

## 巻頭言

### 「生活工学研究」の休刊にあたり

#### On the Suspended publication of Journal of Human Environmental Engineering

小川昭二郎

Shojiro OGAWA

1999年2月に「生活工学研究」第1巻を発行し8年が経ちますが、本年2月をもって休刊することといたしました。これまでご協力いただいた方々には心より御礼申し上げます。

1992年10月にお茶の水女子大学に生活科学部が発足し、ここに生活環境学科生活工学講座が設置されました。20世紀に工学が果たしてきた役割はきわめて大きいものですが、同時にまた大きな歪みを与えることとなりました。それは環境を考えず産業重視としてきたためです。工学の重要性は21世紀においても変わるものではありません。しかし、それは社会と環境に責任を持つものでなければなりません。21世紀の工学は人間や社会に対し深い理解を示すものでなければならず、とくにこれまで女性の進出が少なかった工学部門が女子大学の生活科学部に置かれたことは意義深いと考えました。

ここに生活工学研究会を立ち上げ、機関紙「生活工学研究」を発行することは、新しい講座の研究教育内容を社会に示す責任を果たすと共に、各方面から生活に根ざした工学の論文の投稿を期待したこと、さらに本学学生に論文作成の機会を与えることを目的として、1999年に第1巻を発行することとしました。本誌の使命は8年間においてかなり達成され、今後の研究教育にいかすことが出来ると考えています。

2004年4月より生活環境学科生活工学講座は人間科学分野を加えて人間・環境科学科へと発展解消となり、それに伴って本年とりあえず生活工学研究会を解散し、「生活工学研究」を休刊することとしました。人間科学と工学との融合により21世紀の環境問題を考える上で、さらに強力な体勢が得られたと考えています。地球規模での環境問題、エネルギー問題、資源問題は待ったなしの状況にある現在、しっかりと基礎科学を学んだ女性が女性特有の感性を持ってこの分野へ進出することは極めて重要であると考えます。「生活工学研究」の使命が終わったのではなく、さらに新しい考えの下に行動を起こさなければならぬと考えています。

最後に、本会会員の方々、本誌にご投稿いただいた方々、生活工学研究会の立ち上げにご尽力いただいた本学名誉教授中島利誠氏、ならびに一貫して「生活工学研究」の編集に努力されてきた本学教授會川義寛氏に感謝申し上げます。

(生活工学研究会会長)